

研究・調査報告書

| | |
|--|---------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 306 | 独立行政法人酒類総合研究所 |
| 題名 (原題/訳) | |
| <p>Smoking cessation, alcohol intake and transient increase in the risk of metabolic syndrome among Japanese smokers at one health checkup institution.</p> <p>ある健康診断機関の日本人喫煙者における喫煙の中止、アルコール摂取と一時的なメタボリックシンドロームリスクの増加</p> | |
| 執筆者 | |
| Hishida A, Koyama A, Tomota A, Katase S, Asai Y, Hamajima N. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| BMC Public Health. 2009 Jul 27;9:263 | |
| キーワード | |
| 喫煙、アルコール摂取、メタボリックシンドローム | |
| 要 旨 | |
| <p>メタボリックシンドロームは冠動脈性心疾患と 2 型糖尿病リスクのある個人を同定するのに効果的な基準であると考えられている。喫煙の中止がメタボリックシンドロームリスクを増加させる可能性があるという仮説を検証するため、飲酒習慣を考慮に入れた追跡調査をある 1 つの健康診断機関で行った。被験者は聖隷三方原病院の病気予防・健康診断施設に 2003 年 1 月から 2006 年 12 月に年次健康診断で受診した人とした。このうち、初年度にメタボリックシンドロームでないとされた 5872 名の喫煙者 (5479 名男性、93.3%) を選んだ。長期間の追跡調査の間、喫煙状態とメタボリックシンドロームリスクの関係を評価した。喫煙をやめなかった人に比べ、喫煙をやめた人では連続 2 年間でメタボリックシンドロームの補正ハザード比が有意に上昇していた (HR=2.09、95%CI:1.43-3.04、$p<0.001$)。また、喫煙をやめた人の中でも、初年度に飲酒習慣があった人ではメタボリックシンドロームの補正ハザード比がより高かった (HR=2.42、95%CI:1.48-3.94、$p<0.001$)。さらに、追加の 1、2 年間の追跡調査によってこのようなメタボリックシンドロームリスクの有意な上昇が一時的であることが明らかになった。本研究では、喫煙の中止が有意にメタボリックシンドロームリスクを上昇させ、特に飲酒者でこれが顕著であることがわかった。喫煙中止のこの有害な影響は短期間のものであるが、この有害な影響に喫煙をやめた人をさらさないためにも、アルコール中止の介入を含む措置を取るべきではないかということの本結果は示唆している。これらの結果を確認するためにさらなる研究が必要である。</p> | |